

第7回アジア学術会議共同声明「エネルギーと環境」(仮訳)

エネルギーと環境の問題は人類が共通して直面する難問である。この問題は、地球規模的であると同時に、社会的、技術的、経済的、政治的な側面を有しており、ダイナミックな経済発展が進行中のアジア・太平洋地域では特に深刻である。我々、SCAのメンバーは、今後も連携・協働を強化しつつ、エネルギーと環境の問題について分野横断的な研究に取り組み、この問題に取り組む市民の意識と政治的意思の向上に貢献することを宣言する。

(1) 長期的視点に立った継続的取組

アカデミー、産業界、政府は、それぞれの役割に応じて社会に貢献する取組が必要である。科学者による更なる学術的根拠とともに、民間部門におけるそれらの知識の実用化への取組が必要である。また、政府は戦略的な研究開発推進を主導すべきである。アカデミーは分野横断的な新たな学問領域を確立することが重要である。また、人材育成、統計や地球観測体制の整備等、知識基盤整備の継続的な取組が望まれる。

(2) 技術的及び社会的革新の実現

エネルギーと環境の問題の解決のためには、個別技術の継続的開発と個別技術の組み合わせによる技術革新が必要である。技術開発においては、社会ニーズの地域間差異・時間的変化を踏まえた柔軟な対応が重要である。エネルギーと環境の問題の解決には、技術革新のみならず、社会的な革新も必要である。社会インフラ整備においては、環境の調和に配慮しなければならない。また、ライフスタイルを見直し、改革するために、教育・広報活動を推進すべきである。

(3) 衡平性の確保

エネルギーと環境の問題はすべての国を巻き込む問題であり、持続的発展を実現するために各国間、世代間の負担が衡平となるような、グローバルな枠組みの確立に向けた国際的な合意形成が必要である。発展途上国においては、経済発展や生活の質の向上にともないエネルギー消費量が増加することが見込まれる。先進国からの技術移転により、「後発の利益」として先進国の技術を活用し、経済成長とエネルギー利用の効率化を共に実現することが望まれる。